

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200211		
法人名	ケアサブライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームもくれん		
所在地	群馬県高崎市中居町1-8-1		
自己評価作成日	平成27年5月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和3年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム内ばかりでなく、季節に合った外出行事を行うなど、職員が利用者と共に過ごす機会を多く設けることで、多くの笑顔を引き出すよう努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>前回の外部評価結果に対して、真摯に受け止め努力していることがうかがえた。コロナ禍においては外出することが困難ではあるが、ベランダが設置されているため、ベランダに出て外気浴をしたり、隣接する畑で働く人に声をかけたりと、外部との関わりを大切にメリハリのある生活を送っていることが分かった。また、長年変わらずに継続されている支援がある。それは食事作りであり、材料の買い出しから職員が関わり、献立は利用者の希望を募り一緒に考え、食べ慣れた味の料理を手作りで提供している。おやつ作りやお楽しみ会(敬老会・誕生日等)でも提供しており、楽しい食事の時間を大切にしていることが分かった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで事業所の理念を唱和している。また、毎月の職員会議内でも理念の唱和を行い、統一したケアにつなげる為確認している。	コロナ禍や利用者の入れ替わりがあり、変化はあったが、職員が定着しているため、生活は変化もなく、理念は申し送り時に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の前に、地域の方、利用者家族、民生委員等の方々と入居者様と一緒に体操、行事等で交流したり、消防訓練を通じての交流を行っていたが、新型コロナの為延期	外出がコロナ禍により困難なために、地域との交流はベランダでの外気浴時に挨拶を交わす程度だが、回覧板が届いており、地域の情報は把握している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での認知症の勉強会を行い、認知症の理解を得る機会や意見交換を通じて理解を深める機会を提供している。今は、新型コロナの為実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者が召し上がっている食事の一例を召し上げて頂き、意見や評価を頂いている。認知症とは、どんな事なのかを意見交換している。今は、新型コロナの為実施できない。	現在は書類開催となっており、家族等の運営推進会議メンバーに活動報告と現状の説明等を記した議事録を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に話したり、意見を頂いている。今は、新型コロナがある為実施していない。	法人の担当課長がホーム長と情報交換を行い、その内容等を市の担当者に報告し、連携を図っている。家族の希望による、介護保険の更新申請の代行や調査時の立会い等行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の開錠については運営推進会議の時に話し合いをしているが、ご家族は道路に面していることもあり、施錠を希望している。しかし、行事・会議・往診などがある時は開錠したりしている。また、ご家族様からじたくのカギはかけているので、施錠してほしい。	玄関は施錠している。その他の身体拘束にあたる行為はしていないが、スピーチロックに関しては職員同志注意しながら支援にあたっている。会議では当日出勤職員が参加し、身体拘束や虐待についての勉強会で印刷物を配布している。	玄関の施錠についても身体拘束にあたることを職員が再認識し、開錠に向けての工夫や努力をしてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や朝礼で勉強会をして防止に努めている。新型コロナの為プリントなどを見ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で学ぶ機会を持ち勉強したり、個人でも学ぶよう促している。新型コロナの為個人で今までの復習していただいて貰っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際は、利用者や家族に時間をかけ説明をし、読み上げて理解を頂き、最後に疑問は無いか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情連絡先を明示し、用紙・小箱を用意し、記入できるようにしている。また個人面談を行い、その時に家族から意見を伺っている。	帰宅願望や家族に会いたいという希望が出ている。窓越し面会・タブレット面会等で姿を見てもらい双方に安心してもらっている。家族には手紙で写真を入れて日常の様子を伝えたり、返信用封筒を添えて意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言える雰囲気作りに努めており、職員会議、申し送りなど、普段の業務の時から意見を言ってもらっている。また、日々の個別業務日誌を通し、意見や不満を把握している。	利用者の状態の変化や排泄に関して職員から意見が出ている。また、ホーム長と職員の個別の専用ノートがあり、職員が自由な内容で書き込め意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課時に自己評価を行ってもらい、担当課長と管理者で再評価を行う。各自の思い・意見も聞いて、やりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で勉強会をしたり、研修会に参加し勉強する機会を確保している。新人職員にはマンツーマンでの指導を行い、進捗状況に応じた指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に入会している。行事などでの交流や、全体会議などでも交流する機会がある。また、運営推進会議にはあんしんセンターの職員にも参加している。新型コロナで延期している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人へ状態確認を兼ねて御挨拶に伺っている。また、入所当初には職員全員で積極的に関わり、得た情報を基にケアプラン作成に役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から、入居者の情報だけではなくご家族の状況や意向の把握、出来る事出来ない事を明確に提示している。初回の状態確認の際には可能な限りご家族にも同席して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族からお話を聞いて、暫定的なケアプランを立案しご家族に確認頂いている。PDCAほサイクルを基に、入所1カ月経過後、改めてケアプランを見直し、過不足無いよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人は何をしたいのか、昔何をしてきた方なのか、今何が出来るのかを共に探していき、暮らしを共にするもの同士の関係を築き、時には職員はご利用者様に感謝していることを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や行事の参加をいただいたり、時間があれば面会もしていただき、プライバシーを考慮し個室でお話しをしていただいている。今は、個室にて オンライン面会や事業所新聞を見て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達・親戚の方々の来苑を快く迎えたり、お手紙・はがきのやり取りも途切れないよう支援している。今は、新型コロナの為オンライン面会などにして頂いている。	在宅時と同様に、自室で日記を付けている人や身なりを整え風呂の準備をしている人、利用者が決めるDVD鑑賞等、自分の時間を楽しんでいる人もおり、できることの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有できる場所を用意しており、そこでのレクリエーションや会話、TV鑑賞をしていただいている。また、入居者様同士でコミュニケーションが図れるよう、職員が介入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中見舞いを出したり、退居される時には声掛けをして「困ったことがあればいつでも来てください」と声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	インテーク時の情報以外にも、入所後、ご家族から得た情報を基に、ケアプランへの反映、普段からの支援に活かしている。	ケアマネージャーが週に1~2回訪問しており、利用者との会話及び担当職員やケア記録等から意向を確認している。家族からは、ホーム長が利用料支払い時等に希望を確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族に協力頂き、生活歴を可能な限り聞き出し、作成をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が分かるようファイルを個々にして現状が分かるようになっている。また、連絡ノートや医療連携ノートを用意し、大きな変化に合わせた対応ができるようにしている。朝はその日の職員に申し送りをしてその日の夕方は夜勤者に申し送りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や、運営推進会議、家族面談、家族会などご家族からの要望、意見を聞きだす機会を設けており、頂いた意見を基にケアプランの作成に活かしている。今は、新型コロナの為電話にて対応している。	月1回ケアマネージャーがモニタリングを実施している。介護計画については、アセスメント及び当日出勤している職員と共に担当者会議を行う等、3ヵ月毎の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をケア記録に記入し職員全員が共有できるようにしている。急な変化の時は、申し送りノートに書き留め見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知機能及びADLが軽度な方についてはお手伝い等を行って頂き機能の維持、向上に努めており、重度な方へは訪問看護の導入、ターミナルケアの実施まで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には区長、民生委員、あんしんセンター等近隣の関係者にも参加していただき、意見を頂いている。また、近隣のお店にも出かけ買い物をしている。今は、新型コロナの為延期。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様とかかりつけ医を相談し希望するところに決めて頂いている。また、ホームの協力医もいることを紹介している。	入居時に説明しかかりつけ医の継続か事業所の協力医への変更を選択している。協力医による2週に1回の訪問診療がある。協力医の診療以外(眼科等)は家族の受診支援である。歯科は必要時訪問歯科を依頼できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算に基づいて、看護師に報告・連絡・相談を行っている。また、職員と看護師との医療連携ノートを用意し活用しているほか、24時間連絡体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでは協力医との信頼関係が出来ており、休日・夜間の急な対応もしてくれるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携しながらご本人・ご家族様と話し合い、身体機能の変化に合わせてカンファレンスをその都度開き、望むケアが出来るようチームと関係者と一つとなり対応している。	法人としての終末期対応指針がある。事業所としては事例があり、今後も希望があり、医療的処置が必要ないという協力医の判断により、指針に沿って終末期対応を実践して行く予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。研修に参加したり、会議などでシュミレーションを行い、AEDの使い方、救急搬送時の対応について全職員が実践できるよう取り組んでいる。新型コロナで研修は、していないが以前のプリントなどの見返すよう促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、自主避難訓練を行っている。火災だけではなく風水害も想定している。備蓄品は3食3日分をストックしている、年2回は消防訓練を行っている。地域の協力も頂いている。新型コロナの為地域の協力は、延期にしている。	ハザードマップで事業所周辺は災害地帯ではないことを確認している。日中と夜間想定で地震と出火場所を想定した自主避難訓練を実施している。水や食料・排泄用品等、ローリングストックとして用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を知り、人格を尊重している。プライバシーの研修についても職員会議を通じて行っている他、新人職員には入職初日に指導している。	レクリエーション開催時の参加か否かの選択、DVD鑑賞時の作品選び、自分の時間を持つこと等利用者はどうするか聞くことで選択する機会を作り、尊厳に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話の中や行動で一人ひとりがどんな思いをしているか見極めて、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方その方の長年の生活スタイルがある為、把握し対応している。お食事などその方のペースがある為、職員の都合には合わせていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを知り、洋服などは好きなものを選んでいただき、おしゃれして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みを把握し、バランスが取れるようなメニュー作りを考えたり、色や見た目も食欲をそるようしたり、片付けも一緒にしている。入居者様の希望をメニューに取り入れることもある。	食事の献立やおやつ作り時には利用者から好みを聞き、食べ慣れた味の料理を手作りで提供している。献立は見えるところに掲示し、楽しい食事の時間を大切にしている。お茶碗拭き等手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの量を把握し主食の量も違うため、一人ひとりのお茶碗を用意したり、分量もなるべく確保できるよう色々な味のものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケアをしている。出来ない方は支援して、いつも清潔を保っている。夜は義歯と口腔セットの消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、オムツを使用せず、排尿パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	各利用者の特徴を職員は把握しており、排泄チェック表や時間で、できる限りトイレで排泄できるように支援している。一人対応が基本だが、二人対応になってもトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューもバランスを考えたり、水分にも気を付け、食事前に簡単な足踏み体操を行っている。3時のおやつ前に5分ほどホール内を歩行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴日を設定しており、入浴拒否があった方でもいつでも入浴が出来るよう支援している。	週に3回入浴日が一応は決められているが、声をかけて、希望があれば支援している。他の利用者が入っているのを見て入浴を希望する人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や体力に合わせて、日中も休息のため臥床、午睡をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個々のファイルとして保存し、常に確認できるようにしている。服薬支援は3回確認し、変更があった時はすぐに全員が		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせて、お手伝い・趣味をして頂いたり、外食などもして気分転換していただいている。今は、新型コロナの為ベランダへ出たり、DVD鑑賞にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近隣の公園へ散歩に出かけている。また、イチゴ狩りや本部主催の年間行事(ゆったり保養会・秋のバス旅行)には可能な限り全員参加、ご家族にも参加頂いている。今は新型コロナの為天気の良い日には、ベランダに出たり、DVD体操をしたりで対応している。	コロナ禍により外出が困難なため、屋内での行事(豆まき等)を増やし、楽しみ事に繋げている。ベランダを利用しての外気浴や体操をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の買い物や定期的に必要なものは職員が購入しているが、希望があれば家族にもお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも掛けて頂いたり、手紙・お年賀などは書いていただき支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、定期的なワックス掛けを行っているほか、入居者様と一緒に作成した、季節毎の掲示物を作成し施設内に掲示している。また、居室内には馴染みの物を持参して頂いている。	レクリエーション時の写真を掲示する場所や季節が分かる花や掲示物等、共用空間は大人の設えを意識している。生活臭やコロナ対策の換気は時間を決めて行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立の方はお部屋内でお好きなように過ごして頂き、共有空間はソファを用意してお話しをしていただいたりしている。今は、新型コロナの為 密にならないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族に趣旨を説明し理解してもらったうえで、可能な限り、ご本人の使用していた物や本人のお部屋に置いておいた物などを持参して頂いている。	箆笥や俳優のポスター、家族の写真等が飾られている。生活臭やコロナ対策の換気は朝網戸にして空気を入れ替えている。自室で自分の時間を楽しんでる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活歴に合わせて、安全で楽しくご本人を尊重しながら、なるべく自立した生活が送れるよう支援している。		